

## 愛知県名古屋市長

活動が始まりました。現在は、名古屋三河川ライオンズクラブ、福川エレクトロニクス「POE EMO あいち」の3グループが活動を続けています。最初に変化が感じられたのは悪臭の軽減でした。川の近に住む人たちは「最近臭いがなくなつた」と実感しています。以前は、手に付いた水の臭いが水道水で洗つても落ちませんでした。現在では、水も臭いが体からは、臭い上バクテリアを乗む人の姿も見られるほど、臭いが無くなりました。納め橋近くの川沿いのお店ではオープンな空間でビールやワインと食事

を楽しむ多くの人で賑わっています。

そして、2013年の春からこちらで観測される種類も増えていく事実があらわになってきているのにも類します。ミンコノの小さな小さなブラックトンクトン、フサモセとセシヨウなどの藻類、イトミミズ、ゴカイの幼生、イソギンチャクなどの動物も大量に出現し、名古屋市で準絶滅危惧種に指定されているフナエビが1cmほどの小さなゴメンギガのように、甲殻が7cmほどのオクズグミも見られるようになりました。ハヤシやゴブリのような小魚の大群の姿もあり、これまで観察され、体長20cm程度のセイゴ(スズキの子)とも現れています。魚の数が増えたと増えたことは、それらをササとする鵜がササなどの野鳥が川に滞在しているのとも明らかにです。

EMの優れているところは、単に水をきれいにするのではなく、生態系を豊かにすることです。水中に酸素を送り込んだり、手に負えないほど過剰に堆積したヘドロを取り除いたりすることは、必要な場合もあります。しかし、それだけでは生態系が豊かな川にはなりません。

堀川は今、生態系ビラミッドの底辺を支える微生物のバランスが良くなり、本来の自浄作用の地力をつけてきています。近い将来、誰もが感動するほど、生き物にあふれた活力のある川へと変貌することが期待されます。

名古屋市中心部を流れる堀川は、400年前に名古屋城築城のための物資運搬水路として開削された全長16kmの一級河川。河口には、東海道五十三次で知られる宮宿(名古屋市中熱田区)から桑名宿(三重県桑名市)を結ぶ「七里の渡し跡」がある。

